(公財)北海道サッカー協会　御中

令和 6 年 5 月 24 日

2024 年度第 2 回（通算 12 回）　北海道レフェリーアカデミー　事業報告

報告者：丑屋　幸大（苫小牧）

【日　時】 2024 年 5 月 11 日（土）,　5 月 12 日（日）
【場　所】 5 月 11 日（土）：苫小牧市緑ヶ丘公園サッカー場　苫小牧東高校会議室
5 月 12 日（日）：岩見沢市岡山スポーツフィールド多目的広場　岩見沢市生涯学習センター
【参加者】 審判員：高須賀哲平　丑屋幸大　及川凌夢　岩本駿士
インストラクター：古曽部統太郎氏(RAM)　今川一輔氏(RAI)　岡田渉氏(RAI)
オブザーバー：　増田裕之氏(強化指定審判員)
【研修テーマ】 15m にこだわる

【5 月 11 日（土）】
8:20　集合　苫小牧市緑ヶ丘公園サッカー場
9:30　試合実践「U18 ブロックリーグ道南 1 部　苫小牧東高校 vs 苫小牧中央高校」

主審：高須賀　四審：丑屋　　担当 INS：今川　氏

＜主審振り返り＞

前回のアカデミーで出た課題である「受け手の監視を行い、動き出しに繋げる」ということを今回行い、成長に繋げることができ、最終的な PA 内のファウルの見極めの正確性をあげることができた。

28 分の PK と判定したシーンについて、相手の大きなチャンスとなる攻撃を阻止した（SPA）ことで PK により懲戒罰なしとしたが、決定的な得点の機会の阻止（DOGSO）とも考えられた。その場で正しい判定だけでなく、正しい状況把握もできるよう、良い角度で判定していきたい。

15mだけを意識し過ぎてしまい、ポジショニングで混乱を生んでしまったが、HT でなぜ 15mを求められているのかということ考え直し、後半から改善することができたのは良かった。

＜INS コメント＞

走力、スプリント、動き出すタイミングなど成長が感じられた。（7 分,10 分,22 分,59 分,73 分）一方で、アシスタントレフェリーサイド付近のポジショニングに若干の課題が残る。今後は競技者の技術力やチーム戦術などを把握しながらポジショニングを調整して下さい。

11:40　試合実践 「U18 ブロックリーグ道 1 部　苫小牧工業高校 vs 函館大学付属有斗高校」

主審：岩本　A1：丑屋　四審：高須賀　　担当 INS：岡田　氏

＜主審振り返り＞

警告 6 枚を一方のチームに出しているとことは、ゲームコントロールの印象があまりよくないと感じた。この試合で警告を出さないためのマネジメントができていたかと言われると、最初の工業競技者が函大 GK へ不用意にチャージしたところだけであり、他の場面ではイエローカードを出すだけで、その後の選手へのアプローチができていなかった。「もうそういうプレーはやめてくれ」など周りにわかりやすく言うことでも 1 つの予防策にはなると考えた。

＜INS コメント＞

パーソナルでのマネジメントは評価したいと思います。しかし、どこか警告するだけの機械化になっていたように感じました。声をかける内容、時間、声のトーン、笛の強弱、レフェリーとしてどのような試合にしたいのか含めたメッセージを考えてみてください。

13:50　試合実践 「U18 ブロックリーグ道南 1 部　伊達開来高校 vs 駒大苫小牧高校 2nd」

主審：及川　四審：岩本　　担当 INS：岡田　氏

＜主審振り返り＞

判定などは自信を持って決断できたし、周りの声にも影響されることなくできた。一方で、副審や両チームの競技者に、負傷者がいることを教えてもらうなど、自分自身で気づくことができなかったことがあった。試合の中でリーダーシップを発揮できない場面もあったので、次回以降は常に周りを見てより一層気づきを多くしていきたい。

＜INS コメント＞

時折周囲（副審）に甘えている印象があり、主審の権威が感じられない場面もあった。スローインの違反は副審がはっきりと判断できる場面ではあるが、主審としてリードしながら声掛け等を行って欲しい場面であった。

16:00　試合振り返り

17:00　英会話　苫小牧東高校会議室 『Enjoy English!!』

講師：ライオンズ アマンダ（苫小牧東高校教員）

英語を使ったワードゲーム、コミュニケーション(自己紹介・他己紹介)、ロールプレイング(試合中の 1 シーン)を行い、自分を表現しました。また、審判をする上で必要なもの(physical,communication etc)を英単語で表現・確認することができました。審判員 4 人とも、1 年前の英会話の講義と比較すると、物怖じせずに英語でコミュニケーションをとることができていたことは、精神的な成長の観点から良かった。

18:10　諸連絡・解散

【5 月 12 日（日）】

8:30　集合　岩見沢市岡山スポーツフィールド多目的広場

9:50　試合実践「U18 ブロックリーグ道央 1 部　恵庭南高校 vs 岩見沢緑陵高校」

主審：丑屋　A1：高須賀　A2：岩本　四審：及川　　担当 INS：古曽部 氏

＜主審振り返り＞

試合を通して両チームの競技者がフェアにプレーをしていたためにファウルが少なく、大きくマネジメントするポイントは少なかったと考える。パーソナルなマネジメントは的確に行うことができ、選手も納得していた。しかし、86 分の頭部の接触ではマネジメントを行っているが、パブリックではなかったため、改善が必要だと感じた。今後は笛を有効に使うことや時間を使うことでパブリックに伝えられるようにしたい。

＜INS コメント＞

FK、CK マネジメントは手順通り行われていました。マネジメントの課題点としては、62 分岩見沢 GK へのチャレンジは、危険な行為であったためもっと強い注意をすべきでした。

気になったのは、笛の強さです。主審としてゲームをコントロールするためのポイントとなる判定の際、全て単調な強さのない笛でした。「主審は笛で語る」ことを課題としてください。

12:00　移動・昼食

13:30　講義　岩見沢市生涯学習センター 『技術との協調』

講師：増田裕之氏（A 級 G 保持者　強化指定審判員）

① 戦術的な視点から、プレーの予期予測や、動きとポジショニングに必要な要素を整理することができる。

② 世界のサッカーのトレンドを知ることを通して、サッカー理解を深めることができる。

上記 2 つをテーマに講義いただいた。サッカーの 4 局面と 3 つの状況（ボール状況、数的状況、エリアの状況）について整理いただいた上で、当日の試合実践を用いて、

・両チームは、どんな立ち位置をとっていたか（フォーメーション）

・4 局面ではどのようにプレーしようとしていたか

・キーマンは誰だったか

（ボールがよく集まる「質的優位性」がある選手など）

・時間帯でどう試合展開が変わったか（序盤、中盤、後半）

・戦術的な変更や、交代選手が入ったことで、試合展開は変わったか。

（その交代選手は上手く試合に入れているか。入れない場合、イライラして反則が多くなることもある）

などを考慮事項に入れてディスカッションしました。これらのことを理解しながらレフェリングをすることは、プレーの予期予測につながり、プロアクティブにゲームをマネジメントすることにつながると感じました。サッカーを「知る」ことは審判員として有益であることがとてもよく理解できたので、進化し続けるサッカーを常に学んでいくべきだと感じました。

15:30　試合振り返り（戦術的要素以外）

16:00　諸連絡・解散